

団体名	公益財団法人宮城県国際化協会 公益財団法人山形県国際交流協会	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業	ジャンル
事業名	事業費総額 1,534 千円		災害対策

宮城・山形 定住外国人エンパワメント・カレッジ ^{えんかれ} (Enkare)

事業のポイント

- ◇東日本大震災という未曾有の大災害を経験してもなお、あまり語られることのない定住外国人の『自助力』と『共助力』のエンパワメント」にスポットを当てた事業。
- ◇大規模災害時における定住外国人相互の県域を超えた支援体制の構築を図った。

事業の背景・目的

- ◇東日本大震災で得られた教訓に、自然災害の多い日本で暮らす定住外国人にとっては、平時からの「自助力」と「共助力」の涵養が非常に重要だということ、また、地殻プレートの異なったエリア(山形県)との平時からの連携が重要だということが挙げられる。
- 本事業は、この二点を目的に掲げ、宮城・山形両県に暮らす外国人が共に学び合う講座を実施し、エンパワメントと人的つながりを目指し実施したものである。

事業の概要

(1) プログラム

- ① 開講式&基礎講座 1 「新在留管理制度について」@宮城
日時：平成 25 年 7 月 13 日(土) 13:00~15:00
講師：申請取次行政書士 櫻井 克俊氏
参加者：宮城 35 名、山形 23 名
- ② 基礎講座 2 「年金と保険制度について」@山形
日時：平成 25 年 8 月 3 日(土) 13:00~15:00
講師：みやぎ年金・労災サポートの会 社労士 3 名
阿部陽子氏、富樫敦子氏、坂本祐一氏
参加者：宮城 25 名、山形 19 名
- ③ 特別講座 「継承語教育について」@山形
日時：平成 25 年 7 月 13 日(土) 13:00~15:00
講師：松尾 慎 氏 参加者：宮城 18 名、山形 24 名
- ④ 基礎講座 3 「メンタルケアについて」@宮城
日時：平成 25 年 9 月 21 日(土) 13:00~15:00
講師：臨床心理士 一條 玲香氏 参加者：宮城 32 名、山形 22 名
- ⑤ 基礎講座 4 「最近の葬祭事情について」@宮城
日時：平成 25 年 10 月 12 日(土) 13:00~15:00
講師：清月記葬祭ディレクター他 参加者：宮城 23 名、山形 16 名
- ⑥ 基礎講座 5 & 閉講式 「新・防災研修と広域ネットワークについて」@山形
日時：平成 25 年 11 月 9 日(土) 13:00~16:00
講師：SONAE 古橋 信彦氏 参加者：宮城 23 名、山形 16 名
- ⑦ 受講者を地域人材としてつなぐ懇談会@栗原市
日時：平成 26 年 2 月 7 日(金) 14:00~15:30
参加者：自治体(栗原市) 4 名



開講式



研修の様子

事業実施における工夫点・事業の成果等

(1) 新たなカウンターパートとの協働事業の難しさと果実

これまで、職員相互の顔が見えるということを拠り所に太平洋側の岩手・宮城・福島の三県で東北型多文化共生の担い手育成事業など連携事業に取り組んできたが、東日本大震災を機に地殻プレートが異なる隣県・山形県との連携も必要だということに気づかされた。山形県国際交流協会との初の協働事業は、まず職員相互の顔が見える関係性を構築するところから始まり、予算執行、報告書作成、さらには車両の借り上げなどの手間と経費がかかった。しかし、頻りにメール交換をするなどしたことにより、両協会間に今後につながる信頼関係が生まれた。また、両県に在住する外国人が講座に参加するために長時間バス移動をする中で、各県内の在住外国人相互の新たな絆も育まれた。



実際の葬祭会館で研修

(2) 具体的な成果

参加者全員から、新しい出会いを喜び声が聞かれた。また、昨年11月に発生しフィリピンに甚大な被害をもたらした大型台風ハイエンに関しては、本プログラム参加者が県域を越えて募金活動などで協力し合い、宮城県のメンバーがフィリピンで行った救援物資支援などの活動を後押しした。このことから、地域国際化協会相互が連携することも重要だが、定住外国人相互が繋がることの意義が明らかになった。

今後の課題・将来に向けての展望等

このようなエンパワメント・プログラムに初めて参加した山形県側の外国人と平成22年度に「みやぎ外国人県民大学」というエンパワメント・プログラムで学んだ経験をもつ宮城県側の外国人とでは、次のようなアンケートの結果の違いがあった。具体的には、宮城の場合は、1位「メンタルケア」、2位「葬祭事情」、3位「年金」という順位で関心が高く、山形の場合、1位「防災」、2位「年金」、3位「母語継承」であった。山形の場合、東日本大震災の被災地ではなかったため、逆に被災地の人々以上に巨大災害への関心をもって講座に望んだ方が多かったと思われる。



修了証書授与

それぞれの結果を反映させ、平成26年度には山形県では同様のプログラムを県内各地で開催、宮城県では一番反響の大きかった「異文化ストレスと心のケア」に焦点を当てた新規事業に取り組むこととした。また、相談員研修会など、宮城と山形の人材が共に学ぶ機会の創出を継続して実施する。

このように経験に則してプログラムを進化させることは、私たち地域国際化協会にとっても重要な学びとなっている。

事業担当者のふりかえり

- ⇒ ともしれば、外国人は災害時において要援護者という括りにされがちであるが、東日本大震災を経験した私たちは、旅行者は別として東北の定住外国人がいかに地域貢献できる人たちであるかを確認することができた。定住外国人も地域社会の構成員の一員であるという当たり前のことを前提とした、平時からのエンパワメントが今後も重要だと確信できる事業であった。